別記様式１

令和３年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）実績報告書

（令和４年１月）

研究代表者氏名（所属・職名）	津田　拓郎（旭川校・准教授）
プロジェクトの名称	中学校における前近代西洋史教育の再構築に向けた国際比較研究
共同研究者氏名（所属・職名）	●津田　拓郎・旭川校・准教授 稲葉　浩一・旭川校・准教授 森　悠人・根室市立柏陵中学校学力向上等補助教員

研究プロジェクトの概要

本研究は、高等学校における「歴史総合」必修化に伴う中学社会歴史分野における前近代外国史教育の重要性増大を念頭に置き、道内及び国外の中等教育(特に中学校相当)における前近代外国史教育の現状と課題を分析し、限られた授業時間の中でグローバル化の時代に適合した世界史像を教育できるような授業開発を行うものである。研究代表者は西欧中世史の専門家であり、社会調査の専門家が研究分担者としてプロジェクトに加わるほか、ドイツのギムナジウムで教鞭を取る歴史教諭の協力をも仰ぐことで、先行研究とは全く異なる形の大きな成果が期待できる。

達成度	1	←番号を記入	1　計画とおり達成した	2　概ね達成した
			3　あまり達成できなかった	4　全く達成できなかった

新型コロナウイルスの流行拡大により、研究者のドイツ訪問やドイツ人教諭の訪日が中止となったが、オンライン会議等の技術を使い、当初予定していた内容全てを実現できた。

研究実績の概要

今年度は特に、新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」を中学校の歴史教育において実現するための方策を考える方向で研究を進めた。まず、こうした学びが以前から実現しているドイツの状況を日本と比較するため、引き続きドイツ人のギムナジウム教諭コンラート＝フレンツェルとの共同研究を進め、1年間でオンライン会議を5度開催した。これと関連して、夏に2度道内の中学校社会科教諭3名に対するインタビューと、意見交換会を開催した（対面及びオンラインでそれぞれ1度ずつ）。1度目のインタビューにおいては、道内の教諭のおかれた現状を把握することが試みられ、2度目のインタビューでは、フレンツェルが提供したドイツにおける授業や学校環境のあり方に関する情報を元に、日独の比較を通じて、日本の中学校において「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにどのような障害が存在しているのかを明らかにすることが試みられた。これらの作業で得られた成果は、2022年3月に津田とフレンツェルによる国際共著論文の形で公表されることとなる。

また、森悠人が2021年3月に提出した修士論文に基づきつつ、2021年春に刊行された中学校社会科歴史的分野の教科書における前近代外国史分野の記述の分析を進め、単なる教科書評にとどまらず、実際の授業現場で前近代外国史部分を教える際に注意すべき点などについての具体的な記述を含んだ論文を、津田と森の共著論文として執筆した(2022年3月刊行予定)。

論文執筆以外の活動としては、津田が日本西洋史学会大会における歴史教育関係のワークショップでコメンテータを務めたほか、ヨーロッパ文化総合研究所(東北学院大学)の公開講演会で外国史教育に関する講演を行った。2021年12月には、夏のインタビュー対象者とは異なる道内の教諭4名に対するインタビューを行うとともに、本研究プロジェクトでここまでに得られた成果についても議論を行った。

3度のインタビューやドイツ人教諭との共同研究を通じて、日独の教育現場を結ぶネットワーク及び、北海道における外国史教育のあり方を考えていくための場が整備されはじめたことも、今年度の重要な成果である。こうしたネットワークは、本プロジェクトの期間が終了した後にも継続して研究や情報交換を進めていくための基盤となるであろう。

鈴木道也他との共著論文、小川知幸他との共著論文は、科学研究費(基盤C)の補助を受けて行っている共同研究の成果であるが、本研究プロジェクトとも一部問題関心が重なる部分があるため、本報告書にも掲載した。

最後に、本研究の枠内で行われたインタビューの計画・実施、成果のとりまとめや論文化においては、社会調査に習熟した稲葉が重要な貢献を果たしたことも付記しておく。

研究成果の公表実績

【著書】

【学術論文】

・津田拓郎・森悠人「令和 3 年発行中学校社会科歴史的分野の教科書における西洋中近世史の扱いについて」、『ヨーロッパ文化史研究』23, 2022 年（依頼原稿、脱稿済み[3 月刊行予定]）

・津田拓郎･コンラート＝フレンツェル「中学校社会科歴史的分野における「主体的・対話的で深い学び」をめぐる諸問題―日本の中学校教員へのインタビューと日独比較を手がかりに―」、『史流』49, 2022 年（査読無し、脱稿済み[3 月刊行予定]）

・鈴木道也、安井萌、小川春美、吉原秋、小川知幸、畑奈保美、津田拓郎、田村理恵、出村伸、池野健「大学における世界史教育の現状と課題(3)－歴史学系のオンライン授業に関するアンケート調査(2020 年度・2021 年度)の結果から－」、『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』24、2022 年(査読なし、脱稿済み[3 月刊行予定])

・小川知幸、畑奈保美、安井萌、小川春美、吉原秋、鈴木道也、津田拓郎、田村理恵、出村伸、池野健「大学生のライフストーリーから探る外国史学習の動機付け(続)－擬人化から歴史へ－」、『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』24、2022 年(査読なし、脱稿済み[3 月刊行予定])

【学会発表】

・津田拓郎「コメント」（ワークショップ「日本の大学で西洋史学を教える：教室での実践から」）、第71回日本西洋史学会大会、2021年5月15日、オンライン開催、参加者約150名

【普及啓発イベント、セミナー、研修会等】

・津田拓郎「新学習指導要領のもとでの外国史教育と中学校教員養成」（ヨーロッパ文化総合研究所公開講演会「大学における歴史教育と高等学校必修『歴史総合』」）、2021年12月11日、オンライン開催、参加者約40名

【研究成果の紙媒体、報告書、研修資料等】

【関連URL】

「学術論文」に記載された成果は全てオンラインで公開されるが、本報告書執筆段階ではURLは未確定である。